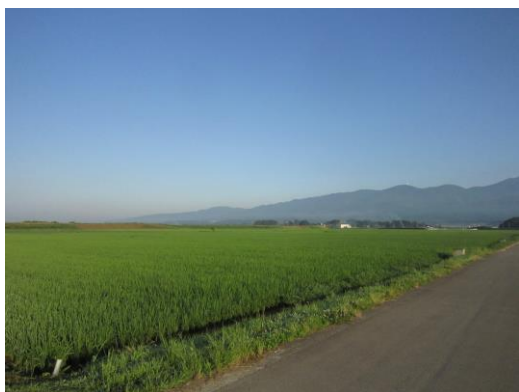


長畝ふるさと通信

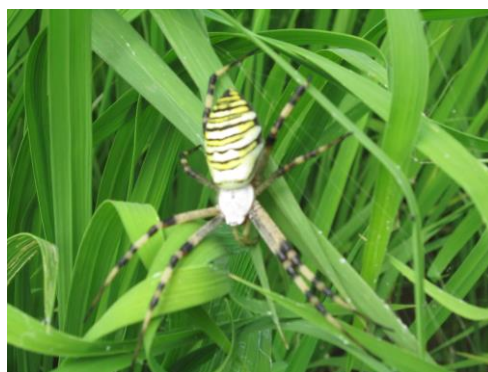
【2011年7月号】

■ 稲の成育は順調です



稲の成育は順調です。7月20日現在、草丈は平均78cmと指標値よりやや高めです。梅雨明け以降、ほとんど雨が降っていないので、葉色もなかなか褪めず稲株ばかり大きくなってしまいそうですが、8月10日頃の出穂めがけて、今後の「穂肥」の投入で生育調整していきます。

害虫ハンター「ナガコガネグモ」(写真)や「ナカムラオニグモ」が田んぼのあちこちに網を張っています。これから米をかじるカメムシを捕食してくれる大切なパートナーです。



無農薬の田んぼは雑草だらけになりました。「コナギ」や「オモダカ」(写真)が群生して、白い綺麗な花まで咲かせています。田んぼの中に花が咲いているのは、無農薬の田んぼくらいでしょう。そのかわり田んぼの中にはドジョウがピチピチと音を立てて泳いでいますし、昆虫などを食べに鳥たちがよってきます。生きものたちにとっては「五つ星レストラン」といえます。

■ 大阪へお米の商談会に出かけました。

7月9日～11日にかけて大阪へお米の商談会に出かけました。震災の影響で東北方面のお米の手配がつきにくいことから、多くのお米屋さんからオファーを頂きました。これを機会に佐渡のお米をもっと全国に広げていきたいと思えます。



■ 体験学習の受け入れ

昨年からは島外の小学生の体験学習の受け入れをしています。7月12日には新潟の小学生約30人で田んぼの生きもの調査や「江」の補修作業を行いました。炎天下の中、子供達は思い思い



にクワやスコップをもち、田んぼに溝を掘っていきます。途中で尻餅をついたり、長靴が脱げたりしてどろんこになりながら奮闘しました。最後には写真のような立派な「江」が完成し、水が貫通すると「やったー」と歓声があがりました。



その後は田んぼの中を走り回って生きものを追いかけてたり、水の掛け合いをして「気持ちE」・・・引率の先生だけが青ざめていました。

■ 韓日生きもの調査

7月21日～24日まで、韓日生きもの調査交流会に参加しました。場所はソウルから南へ高速で3時間、「ホンソン」という有機農業が盛んなところ



です。人口は10万人、郊外へ出ればご覧の風景で佐渡と変わりません。農家の家はこんな感じで家の周りには唐辛子がいっぱい栽培されていました。無農薬の田んぼは「アイガモ」や「ジャンボタニシ」を使って除草していて、雑草はほとんどありませんでしたが、ジャンボタニシの大発生によって生態系が著しく破壊されているとのことでした。韓国の人



は皆、陽気でバイタリティーがあり、国の活力を感じました。しかし、都心部のソウルとそれ以外の田舎では生活格差が著しいようで、それに比べて日本は住みやすいところ

です。来年はこの交流会を佐渡で開催することとなりました。今から準備で大変です。

■ 23年産「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」年間会員申し込みのお知らせ

別紙のとおりご案内させていただきます。会員特典は22年産と同様です。今年は佐渡が世界農業遺産・ジアスに認定されたこともあって、佐渡産米の認知度も上がってきています。ジアスに認定されたからと言って佐渡のお米の値段が高くなるわけではありませんが、朱鷺と一緒に暮らせる環境をお米づくりを通じて作っていかうと思っています。佐渡の地域限定米・長畝のお米を今後ともよろしく願いいたします。



■ ジアスの認定書です。何が書いてあるかは不明です。